プラン・ニュース［2016 Autumn］NO.103

PLAN NEWS



国際ガールズ・デー特集

Girls Diary from ルワンダ

プロジェクトに参加する女の子２人が来日

森星さん

カンボジアの職業訓練プロジェクトを訪問

プランのコミュニティ開発

ジンバブエ　クエクエ活動地域からの報告

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

キーパーソンに聞く

森星さん

●モデル、Because I am a Girl（BIAAG）エンジェル

グローバル社会の大切な友だちとして、これからも女の子を応援していきたいです

プランの活動に賛同し、2015年7月にBIAAGエンジェルに就任したモデルの森星さん。「世界の女の子の様子を、もっと自分の目で確かめたい」と、2年前のベトナムに続き今年の5月にカンボジアを訪問。職業訓練により女の子の未来が明るくなる様子を目の当たりにし、森さん自身も励まされた視察となったようです。

――2014年のベトナムに続き、今年はカンボジアへ。子どもたちとの交流に、また、シャボン玉が大活躍だったようですね。

森星さん（以下敬称略）　そうなんです！　1日目に、アンコールトム郡でプランが支援する小学校を訪問したときに、シャボン玉で一緒に遊びました。シャボン玉を見るのが初めての子どもたちばかりで、目を輝かせて追いかけたりと大はしゃぎ！　たとえ言葉は通じなくても、一緒に遊んで笑顔になれば心は通じ合う…笑顔は世界共通語だということを、今回も実感しました。

――小学校に加えて、15～24歳の若者が通う職業訓練学校へ行き、縫製コースと調理コースを視察されました。そこではどのような印象を受けましたか？

森　皆さまの支援により、農村部の貧しい環境にいる子どもたちも都市部に出て職業訓練を受けられること。そして、卒業後は就職と職場定着のためのフォローアップがあることに大変感銘を受けました。さらに、子どもたちが困難な環境を乗り越えようと、一生懸命職業訓練に取り組んでいることに、明るい未来への可能性を感じました！

――職業訓練学校を卒業した女の子たちの様子も視察されました。

森　はい。まず、職業訓練学校を卒業して、実家で縫製業とメイクアップ業を始めた姉妹を訪問しました。2人が事業を立ち上げたことにより、家計が向上したのにとても満足している父親の様子が印象的でした。

次に、卒業生がインターンとして働くリゾートホテルの調理場にも行きました。上司に見守られながら卒業生がいきいきと活躍している様子に、プランの支援がもたらす大きな変化を改めて実感しました。職業訓練プロジェクトの意義や女の子の社会進出の大切さ、そして女の子の可能性など、視察から本当に多くのものを感じ取りました。

――今回の視察は、森さんの仕事観やライフスタイルにどのような影響を与えましたか？

森　今回出会った女の子たちは、生きるうえでのゴールや目指す未来が明確で、それに向かって真っ直ぐでした。彼女たちが自分の言葉で「将来はこうなりたい」と自信をもって口に出すのをみて、私も仕事や将来のことでもっとしっかりしなくちゃと、励まされましたね！

また、カンボジアの女の子たちは芯が強いのに恥ずかしがり屋だったりして、その姿がすごくキュートなんです。彼女たちを見て、私も強さのなかに可愛らしさがあるような人になりたいって、自分が目指す女性像がよりクリアになりました。

――今後、BIAAG エンジェルとしてどのような活動を続けていきたいですか？

森　エンジェルには「メッセージを伝える人」という意味があります。まずは、これからもフェイスブックやインスタグラムなどSNSを通じて、自分がBIAAGエンジェルとして感じることやできることを発信していきたいです。

また、アフリカの国など、今まで視察したベトナムやカンボジアとはまったく違うところにも行ってみたいです。早すぎる結婚や学校に行けないなど、女の子の抱える問題は多くありますが、自分がどの問題にフォーカスするかはまだ決めていません。今はまず、とにかく現場に行って、女の子たちが何を感じているのかを知りたい。グローバル社会の大切な友だちとして、プランが支援する女の子たちに会いに行き応援したいと思っています。



Profile

もり・ひかり　1992年東京生まれ。モデル、タレントとしてファッション誌やバラエティ番組で活躍中。2015年7月にBIAAGエンジェルに就任。昨年に引き続き2016年国際ガールズ・デーイベントにも登場。ルワンダの「生理中でも安心して通える中学校に 女の子に『ガールズ・キット』を贈ろう！」プロジェクトを支援。困難な状況にある途上国の女の子たちをエンパワーメントするプランの活動を応援しています。



カンボジアの踊りを教わって一緒に楽しみました。「民族衣装も可愛かったです！」と森さん

森星さんのカンボジア視察ダイアリー



アンコールトム郡でプランが支援する小学校を訪問し、シャボン玉で遊びました。森さんが子どもたちに将来の夢を聞くと、「お医者さん」や「先生」と答える児童も



職業訓練学校を卒業して、実家で縫製業とメイクアップ業を営むコンさん（18歳）とキアさん(19歳）の家へ。森さんは、オーダーメイドの洋服を発注しました！



シェムリアップ市の職業訓練学校を訪問し、説明を受け、縫製コースと調理コースを視察。子どもたちが困難な環境を乗り越えようと一生懸命取り組んでいることに可能性を感じました



職業訓練学校を卒業し、インターンとして働いている女の子の職場へ。リゾートホテルの調理係として働いているロムさん（19歳）と笑顔で交流

撮影：Kimlong Meng/Plan International

10月の「国際ガールズ・デー」イベントにルワンダから2人の女の子が来日します！

今年で第5回を迎える「国際ガールズ・デー」。
それに先がけ10月9日にイベントを開催。
来日する2人の女の子をご紹介します。



レベッカさん（15歳）

学校を続けるための支援を受け、将来は、医者になりたい

私はレベッカ。今年15歳になります。私の生い立ちは悲しいものですが、いつか国の重要な人物になりたいという夢を持っています。

私の母は、私を妊娠して学校を中途退学しました。母は、6カ月になるまで身体の不調を妊娠とは気づかず、自分を妊娠させた人のこともよくわかりません。私が生まれたことで、母はルワンダの文化では“恥”と見なされ、家族からも見捨てられ、居場所を失いました。そこで母は、祖母の友人の高齢の女性の家に身を寄せ働きました。

私が学校に通い始めたころのある日、重い荷物を抱え歩いていた母が穴に落ちてしまい、腰骨と足を骨折しました。そのとき以来、生活はさらに苦しくなり、食べるものはもちろん着る服や授業料もなく、その日を暮らすことも困難になりました。それでも、祖父が山羊や穀物を売ることで私を学校へ行かせてくれ、そのおかげで、私は希望をつなぐことができました。祖父は、私の父がわりとして学校の登録を続けてくれていましたが、先日、亡くなりました。私はこの状況にひどく気落ちしましたが、プランが学校に来て私の話を聞いてくれることに、いま幸福を感じています。

私は、プランがこの状況を変えてくれるのではと希望を抱いています。父親を与えてほしいとか、障害を抱えた母親の身体を治してほしいということは思いません。奨学金、本、制服などを支援してもらうことで、私は学校教育を終えて、将来、医者になりたいのです。



家畜に餌をやるのも
日課です

Girls Diary from ルワンダ



国際ガールズ・デー
2016
特設サイト

「国際ガールズ・デー」に向け、女の子2人とキャンペーン実施中です

国際ガールズ・デーイベントに来日する、ルワンダの女の子たち。ルワンダで「差別をなくすジェンダー教育プロジェクト」に参加している2人は、このページにあるプロフィール以外にも来日前からプライベートなこと、プロジェクトに参加しての感想など、いろいろなことをブログに綴ってくれました。(http://www.plan-international.jp/girl/idg2016/)。国際ガールズ・デーにはどのようなメッセージを発してくれるのでしょうか。ぜひ、がんばっている彼女たちのブログを周りの方たちに伝えたり SNS での拡散にご協力ください。

国際ガールズ・デーの報告は、ウェブサイトと12月に発行予定の年次報告書同封物に掲載します。

私の人生を変え、同じような状況の女性たちの人生をよりよくしたい



水汲み場へは
片道2キロ歩きます

私は、フランソワーズ、15歳です。私の母は、早すぎる妊娠で、私を身ごもってすぐに学校を中途退学しました。父は、私が生まれてすぐに亡くなったため、祖父が私の世話をしてくれました。母は、父親の異なる子どもを4人産み、生活費を作るのに苦労しています。

祖父が亡くなったあと、私は年老いた裕福な女性の元へ、養女に出されました。養母は私に学校へ行く機会をくれましたが、皿洗い、家の掃除、ベッドメイキング、料理、洗濯などの家事をさせられていたため、私はいつも疲れていました。

登校時間は7時ですが、遅れると罰を受けます。先生はすべての生徒にこの時間に登校させ、宿題をさせますが、私や他の女の子たちは家事が忙しくてその時間がとれません。学校が終わって帰宅すればまた家事です。電気がないため、明るいうちに皿洗い、掃除などをします。幸い養母が男の子も養子にしたので、家事を手伝ってくれる人ができ、学校へも早く登校できるようになりました。

どんなに家事がつらくても、学校で体罰を受けても、「教育を受けたい」という意欲は失せません。私は自分自身の人生を変え、母や今の私と同じような状況にいる女の子たちの人生を、よりよいものにしたいのです。将来はコミュニティの女の子たちを取り巻く問題に声をあげられる、ジャーナリストになりたいと思っています。



フランソワーズさん（15歳）

2人の女の子が参加する

ルワンダ「差別をなくすジェンダー教育プロジェクト」

● プロジェクトの背景と主な活動内容

ルワンダは、アフリカでも最も人口密度が高い国のひとつで、国民の半分が18歳未満という若い国です。1994年の大虐殺以降、現在は経済成長が続いていますが、国民の約45％が貧困ライン以下の生活 をしています。ルワンダの女子教育は、年長になるほど中途退学や進級できない女の子が増える傾向にあります。背景には、女子教育を軽視する社会の価値観、学校でのジェンダーに基づく暴力があり、男の子も含めた意識啓発をし、現状を変えていくことが不可欠です。本プロジェクトは、女の子に配慮した学習環境を整えるとともに、ジェンダーに基づく暴力をなくすための意識啓発やトレーニングを実施します。

女の子と女性への暴力の撤廃は、全世界共通の課題です

前号から、Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンとしてプランが取り組む課題を解説しています。第2回は、学校内での暴力を含む「ジェンダーに基づく暴力」です。

20歳以下の女の子で性暴力にあったことがある人数。

1億2,000万人

出典：Hidden in Plain Sight, UNICEF 2014

70%

エクアドルの女の子1,000人のうち、学校のトイレを安全とは思わない人の割合。

出典：Girls Speak Out, Plan International 2015

女性への暴力の撤廃は国際社会の長年の課題

女性に関する主な国際枠組みと課題は1945年の『国連憲章』に始まり、ミレニアム開発目標に続く『持続可能な開発目標（SDGs）』でも「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」と定められています。その細目の2つめにあるのが、人身売買や性的な搾取などの、すべての女性と女の子に対する暴力の排除です。

1993年、国連は『女性に対する暴力撤廃宣言』で、女性への暴力を「ジェンダーに基づく暴力」と定義しました。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）による分類[※1]では、①性的搾取・虐待を含む「性暴力」②殴る蹴る等の「身体的暴力」③言葉やいじめによる「心理的暴力」④女性性器切除等の「身体的に有害とされる伝統的慣習」⑤社会的疎外や貧困といった「社会的・経済的暴力」となります。

ジェンダーに基づく暴力は、女の子が直面する重大な問題のひとつです。世界中で1億2,000万人の女の子が性暴力にあっていると推定されています。暴力は、さらにトラウマや精神的ダメージにつながり、毎年、数千人の若い女性たちと女の子が命を落としています。また、公共の場での嫌がらせや暴力への恐怖は、女の子たちが家から出なくなるといった、行動の制限となっているのです。

プランの取り組みは学校内外での暴力も対象に

プランは、早くからジェンダー平等に着目し、長期にわたる変革を進める推進力として活動の中心に据えています。

2008年からはLearn without fear キャンペーンを行い、学校での暴力の撤廃に取り組んできました。この経験と実績をもとに、BIAAGキャンペーンではさまざまな形の「学校内外でのジェンダーに基づく暴力（SRGBV）」の問題に取り組んでいます。

国際会議でもこのテーマでのセッションを多く開催し、SRGBVについてはプランの取り組みが認知されつつあります。

女の子が男の子と等しく教育を受けられるよう支援をするならば、学校内外での暴力にも取り組まなければならない。ジェンダーに基づく暴力を防ぐためのプログラムは、女の子を力づけるだけでなく、男の子を加害者にしないことでもあります。〝男らしさ〟の概念を問い直し、暴力と切り離すことでもあるのです。

※1：ジェンダーハンドブック，外務省平成25年度NGO研究会「ジェンダーとNGO」



クリスティーナさん
（仮名・18歳）

シエラレオネの学校で性暴力の阻止に取り組むプラン・インターナショナルのユース・アドバイザリー・パネル[※2]のメンバー

「私は16歳のとき、お金と引き換えに結婚させられました。4カ月後、なんとか逃げ帰りましたが、家族は受け入れてくれず、友だちの家に身を寄せました。学校へもどると、校長が『授業料を払おう』と申し出てくれたのですが、その代わり性関係をせまってきました。断ると嫌がらせをするようになりました」。この経験から、クリスティーナさんは学校での女の子への虐待を阻止しようと決心。プランとともに活動しています。

※2：プランの意思決定プロセスに参加する若者グループ

～ジンバブエ・クエクエの場合～

学校のインフラや寄宿舎を整えて、子どもが安心して学び健康的に暮らせる社会づくりを

皆さまのご支援のもと、プラン・スポンサーシップの活動が地域にどのような効果をもたらしているのかをリポート。ひとつの地域にさまざまなプロジェクトを同時に進行させ、多方面から地域が抱える問題にアプローチすることで、迅速かつ確実な解決を目指します。第2回は、アフリカのジンバブエの様子をお伝えします。

ジンバブエ・クエクエはこんなところ

アフリカの南部に位置するジンバブエ。経済の不振や自然災害、HIV／エイズの蔓延など多くの問題を抱え、国民の72.3%*が国際貧困ライン（1日1.90ドル未満）以下で暮らしています。プラン・インターナショナルが1990年から活動するクエクエは雨が少なく、農村部に住む約90%の人は零細農業で経済的に貧しい暮らしを送っています。生活のため、金の不法採掘に携わる若者も少なくありません。

＊世界銀行レポート 2011



完成したばかりの清潔な水洗トイレの前で、笑顔の女の子たち。特に女の子にとっては、トイレが不十分な学校は居心地が悪く、それを理由に学校をやめてしまう子も大勢います

近隣の小学校で学ぶ 4,000人以上の 子どもの可能性を広げます！

Project 1
気持ちよく学べる環境に学校を整備

ジーボンブ村にある中学校は、ひとつしか教室がない荒れ果てた建物で授業を実施。2つしかないトイレに生徒も教師も並ばなくてはならなかったり、教室に全員が入りきらず外で授業をすると雨で中断されたりと、過酷な環境でした。このような状況のなか、平均して、学期ごとに2人の教師が学校を去って行きました。そこで、2014年11月から、環境改善のために教室と教師の家を作る資材を用意。行政機関のサポートなどもあって、地域の大人たちも協力的になり、毎日40人もの村人たちが建設に励みました。そして2015年12月、8つの教室と6戸の教師の家が完成。10基のトイレも増設し、学校の環境は驚くほど改善して、今やこの地域の試験会場としても使われるほどに。さらに、教育を断念していた障がいのある子どもが教師の家に滞在し、学校を続けられるようになりました。



学校にできた水道を笑顔で使う男の子たち。安全な水を飲めることは、子どもたちの健康につながります

80人の女の子が 新たに学校へ通えるように

Project 2
寄宿舎を作り女の子に教育の機会を提供

1990年にクエクエ地域事務所が設立されて以来、プランはすべての子どもが学齢期に就学し、質の高い教育を安全な環境で受けられるよう支援に取り組んできました。その主な活動は、学校建設や教師の宿泊棟、トイレの建設などインフラ整備です。

クエクエの農村部の大部分では、家から中学校までの往復距離は平均約20キロ。特に家が遠い子どもは、学校近くにある粗末な小屋に下宿をして通学せざるを得ませんでした。この環境は女の子にとって決して安全ではないため、多くの女の子は学校に行くことをあきらめていました。

そこで、プランは電気や水道など、生活に必要な設備を備えた寄宿舎を日本からの支援で4棟建設。寄宿舎の完成は中途退学者を減らし、女の子の早すぎる結婚の防止にもつながります。そして、教育の機会を得た女の子が自分に自信をつけ、将来に希望がもてるようになる効果も期待できます。

※P13でもご紹介しています



新しく完成したばかりの寄宿舎の前で。20人の女の子が、ここから学校に通っています

525人の大人と 1,575人の子どもに 安全な水を供給

Project 3
健康な生活を送る権利を守る

給水設備の老朽化が進み、1990年ごろから、村の人々は安全な飲料水にアクセスすることができませんでした。その結果、不衛生な水を原因とする病に子どもがかかったり、遠くまで水汲みに行くため女の子が学校に通えなくなることがありました。プランはUNICEFと協力して、水衛生環境の改善を行うため、クエクエの6つの村で活動をスタート。太陽エネルギーを利用した給水設備を、病院や学校など地域の人が集まる場所に3カ所ずつ設置しました。その結果、安全な飲料水にアクセスできない人の割合は25%減少。安全な水を通して人々が健康な生活を送る権利を得られるよう、これからも継続的な活動を行っていきます。



電気の供給が不安定なため、太陽エネルギーを使った給水設備に。6つの村に設置されました

642人（女性441人、男性201人） **のコミュニティ・ボランティアが協働**

Project 4
コミュニティ・ボランティアを育成

プラン・スポンサーシップの活動地域には、コミュニティ・ボランティアと呼ばれる人たちがいます。彼らは地域の住民であり、子どもやコミュニティの改善を手助けするために活動しています。プランでは、このコミュニティ・ボランティアへの育成トレーニングを実施。農業技術指導や世帯収入を増やすためのアドバイス、災害教育などを行っています。

活動当初からのコミュニティ・ボランティアのひとり、49歳のラブモアさんは次のように話します。「私の役目は、プラン・スポンサーシップに参加している子どもたちが、健康で学校にきちんと通っているか見守ることです。プランのトレーニングには学びが多く、大人たちは、女の子を18歳未満で結婚させ教育の機会を奪うことはいけないということも知ることができました」。これまでに、642人にのぼるコミュニティ・ボランティアが研修を受け協働してきました。プランの地域開発に不可欠な存在です。



地元の学校を訪れて、プラン・スポンサーシップに参加している子どもたちの様子をヒアリングすることも



コミュニティ・ボランティアのラブモアさんは地域の母親たちと積極的にかかわり、意見交換などを行っています

プラン・マンスリー・サポーター、プラン一般プロジェクト、緊急支援などの取り組み

子どもたち、地域住民が活動に参加しています

新しくスタートしたプロジェクトをはじめ、世界各地から参加者の声が届きました。

プラン・マンスリー・サポーター

困難な状況にある子どもたちの支援に取り組んでいます



伝統的なダンスと歌で HIV とエイズの予防を訴える若者グループ

文化活動を通じて、楽しく意識啓発！

ジンバブエ
「HIVとエイズに苦しむ子どもたち」

ジンバブエには HIV とともに生きる人々が約 140 万人、うち 14 歳以下の子どもは約 7 万 7,000 人います *。HIV 感染リスクが高まる思春期の子どもたちは、性と生殖や感染予防の知識を得る機会が十分にありません。このプロジェクトでは、中央部のミッドランド州で、学校における性教育、カウンセラーによる相談・指導、また、学校に通っていない若者やセックスワーカーへの意識啓発や支援などを行います。
*UNAIDS 2015 年



学校給食の支給をうける子どもたち

元気に学習ができるように、学校給食を支援

カンボジア
「災害や紛争に巻き込まれる子どもたち」

参加者の声



イムさん
（カンボントム州の5年生の女の子）

「両親と兄たちはゴム農園で働いていて、月末に数日間だけ帰ってくるの。ごはんは自分で準備してひとりで食べるけど、夜は怖いので隣に住む叔母さんの家で寝ます。両親が帰る日を楽しみに、学校は休まず通っています。勉強が好きだし、朝ごはんをお腹いっぱい食べられるから！将来は学校の先生になりたい」
※本プロジェクトは WFP との協力により実施します



地域復興のため労働に汗を流す人々。対価は自身の生活を取り戻すために使われました



卒業証書を手にするアイビーさん

生活を再建するための復興事業を実施

フィリピン
「災害や紛争に巻き込まれる子どもたち」

参加者の声

アイビー・アラーダさん
（20歳 東サマール州）

「私は両親から『授業料が払えないから大学を中退して』と言われていました。そんなときに被災し卒業を諦めかけていたところ、父がプランの復興事業に従事して授業料を払ってくれ、卒業することができました！ プランの防災トレーニングに参加したことで、“警察官になる”という目標もできました」
※本プロジェクトはアジア開発銀行（ADB）との協力により実施しています

このページで紹介しているプロジェクトは、プラン・マンスリー・サポーターでご支援いただけます。
https://www.plan-international.jp/join/monthly/ をご覧下さい。

一般プロジェクト

プロジェクトに関しては
https://www.plan-international.jp/join/priority/ をご覧下さい。

子どもたちが元気に育ち、安心して学べる環境づくりをサポート



参加者の声

子どもたちが安心して勉強できる環境を！

ガーナ
「小学校建設プロジェクト」

ヤンドゥさん
（サンバン小学校6年生の生徒）

「僕は 15 歳ですが、今 6 年生で勉強しています。本当の誕生日はわかりません。僕の学校は教室や先生の数が足りず、教室は 1 年生から 3 年生までが使い、あとの生徒は屋外で勉強しています。水飲み場もありません。このプロジェクトで、もっと多くの子どもたちが勉強できるようになると期待しています」



参加者の声

妊婦に栄養や育児の正しい知識を伝える

インド
「子どもの栄養状態改善プロジェクト」

ビカネール県に住む2児の母

「今、3 人目を妊娠中です。毎月の育児指導では完全母乳育児や予防接種の重要性、離乳食の開始時期や栄養バランスなどを学んでいます。鉄・葉酸の錠剤を適量摂取するようになり、産前検診も定期的に受けるようになりました。カンガルーケア * について知らなかったので、子どもが生まれたらぜひ実践したいです」
* 出産直後に母親が素肌の新生児を胸に抱くことで、母子の結びつきを強めるとともに体温を維持し生存率を高めます



参加者の声

男女別のトイレ建設と衛生習慣の意識啓発

バングラデシュ
「学校における水と衛生プロジェクト」

ムンニさん
（バッシュドホ小学校の5年生の女の子）

「私はいま 11 歳で、5 年生で勉強しています。好きな科目は算数です。私の学校はトイレが足りない上に、男女別にもなっていません。正しい衛生行動についてもよくわからないので、もっと知りたいと思います。日本のお友だちのおかげで、私の学校がよくなるのでとてもうれしいです」

緊急支援報告

注）緊急支援につきましては、6 月 30 日で募集を終了しました

被災者の心に寄り添う支援を

引き続き震災後の心のケアを実施
エクアドル大地震緊急支援

地震被害が最も大きかったマナビ県内の 23 カ所に「子どもにやさしいスペース」を設置。保護されたスペースで学習やレクリエーション活動に参加することで、約 3,250 人の子どもたちが被災のトラウマを克服し、安心感を取り戻しています。



避難所でのペットボトルを使用した風鈴づくり



子どもにやさしいスペースで幼児の世話をするプランのボランティア

地元の心理士と連携し、活動を支援
熊本地震緊急支援

プランは、熊本県の心理士会とともに、教師や保護者のための心のケア講座を県内各地で開催。また、心理士グループによる避難所支援、NPO による傾聴活動、地元アーティストによるアフリカンドラム演奏会なども支援しました。

参加者の声



福岡県で臨床心理士として勤務する「Project 九州」代表の吉村さん

吉村仁さん
（プランが支援する心理士グループ「Project九州」代表）

「御船町や益城町、熊本市の避難所で、住民の孤立を防ぎ、自発性や意欲を促進するための活動を行っています。子どもから高齢者まで参加した風鈴づくりはとても好評で、『ふだんはあまり表に出てこない人も来た』という声もありました」

東南アジアで学校建設を支援 落成式にも出席しました

山口県で、立ち銭太鼓と手芸の教室である「さくら会」を主宰している小山ヤエコさん。「さくら会」主催のチャリティーショーで集めた募金をプラン特別プロジェクトに全額寄付し、これまでに2つの小学校が完成しています。



校舎の落成式に出席する小山さん（左から４人目）


フィリピンにはこんなにカラフルな校舎が完成し――


小山さんたちによる除幕式が行われました

この校舎で学んだ子どもたちが地域を変える大人になってほしい

私の娘がプランを通じてケニアの子どもと交流していたことから、プランを知りました。「健康に動けるうちは社会貢献を」との思いで、1991年、雲仙普賢岳の火砕流災害が発生したときに、歌のチャリティーショーを開催し、経費も引かずに全額寄付。その後、国内のさまざまな子ども支援を経て、途上国での学校建設を決意し、プランにご相談しました。

2011年にフィリピンのマスバテ、2014～15年にはベトナムのハザンでの小学校建設を支援しました。プラン側に希望を伝え、アドバイスをもらいながら進めた結果、想像以上の立派な小学校が完成。日本にいながらここまでの支援ができたことに感激しています。

「さくら会」会員から託された文具等をおみやげに、両校の落成式にも出席しました。現地プランの職員の案内で安心して訪問ができましたし、校舎のプレートに「さくら会」の文字を見つけたときには大感動でした。

だれもが平等で大切な存在。微力ですが、子どもたちの未来を応援する大人でありたいと願い、現在は3校目のネパール地震で倒壊した学校の再建プロジェクトに参加しています。やるべきことをたくさん気づかせていただいたことに感謝しています。


ベトナムで建設した小学校に通う子どもたちとともに

小山ヤエコさんと「さくら会」のプラン特別プロジェクト

フィリピンにおける学校建設プロジェクト

実施期間：2011 年 6 ～ 12 月

2教室の建設と教室の備品支給、手洗い場つきの男女別トイレの建設を支援。現地のプロジェクト委員会が適切な進捗管理を行い、当初の予定よりも早い 11 月に完成。

ベトナムにおける学校建設プロジェクト

実施期間：2014 年 4 月～2015 年 3 月

2教室の建設と教室の備品支給、男女別のトイレ建設、運動場整備とフェンス設置を支援。途中、豪雨による土砂崩れで資材の運搬に影響があり、2 カ月遅れましたが、無事完成。


ベトナムの新しい校舎（右）と男女別トイレ

プラン特別プロジェクトの特徴

- ひとつのプロジェクトを、ひとりもしくは複数の個人や企業で「丸ごと」支援していただけます
- 支援者のご要望と活動国のニーズをすり合わせ、プロジェクトの内容を一緒に作り上げます
- 個別の提案書と報告書を支援者に送付します
- プロジェクトの成果物に、支援者の名前入り記念プレートを設置します
- プロジェクトの完了に合わせ、落成式などの記念イベントにご参加いただけます
（渡航にかかわる実費は、支援者のご負担となります）

● プラン特別プロジェクトにご関心のある方、お気軽にお問い合わせください
連絡先・ファンドレイジング部 TEL: 03-5481-7100 ／ Mail: hello @ plan-international.jp

現地報告 ジンバブエ　女の子が安心して学ぶ寄宿舎建設

寄宿舎に入居予定の女の子たちの笑顔があふれていました！

曽我建太職員（プログラム部）

From Zimbabwe


女の子たちにインタビュー（左から２人目）

6月、ジンバブエのクエクエ地域で実施中の「女の子が安心して学ぶ寄宿舎建設」（→P9）を視察してきました。


建設中の寄宿舎前で笑顔を見せる女の子たち

この地域の農村部に暮らす女の子たちは、近くに中等学校がなく、片道10～15kmの道のりを歩く生徒もいます。通学途中には、女の子を見るとちょっかいを出す男たちがおり、性暴力による妊娠問題も起きているとのこと。学校近くに下宿する生徒もいますが、付近には酒場もあって安全ではありません。

現地では、寄宿舎への入居申請を控えた女の子たちに会いました。最初はみな硬い表情でしたが、寄宿舎の話になると、「学校の敷地内にあって、鉄製のフェンスで囲われている」「数人で暮らす個室やキッチン、シャワー、トイレもある」「教師か職員が駐在するので夜も安全！」などと声をあげ、どんどん笑顔があふれてきました。

一方、各校が担当する寄宿舎運営についての話し合いも進んでいました。運営コスト面では、敷地内で菜園や養鶏をして食費を抑える、ソーラー発電で電気代を賄うといった案が出ていました。また、農家の家庭は寮費の一部を農作物で代替できるようにするなどの議論も展開されていました。積極的な議論が進んでいる様子を見て、とても頼もしく感じました。

業務報告 支援者サポート部

デザインを一新した「一年の歩み」をお楽しみに！

黒田由美子職員（支援者サポート部）

From Tokyo


報告書作成チームのメンバーとともに（左から２人目）

プラン・スポンサーシップでご支援くださっているスポンサーの皆さまへ、報告書「一年の歩み」をお届けする業務を担当しています。チャイルドの成長や地域の変化を記録したこの報告書は、多くの人を介して日本に届き、国内では翻訳や記載内容の確認等で、ボランティアの方にも関わっていただいています。例えば、報告書の写真と記録上の性別・年齢に食い違いがないか確認するのですが、判定の難しい例もあり、みんなで悩むことも。でも、チャイルドの笑顔の写真に元気をもらっています。

今年、「一年の歩み」はデザインを一新しました。最大のポイントは、チャイルドの写真がミシン目で切り取り可能になったこと。以前よりも大きな封筒でお届けします。今年度の到着をお楽しみに！



ユース・ハンドブックが完成！

プランの活動を同世代に広め、支援と共感の輪を広げる活動を展開しているプランのユース。このたび、彼らに活用してもらうための「ユース・ハンドブック」が完成しました。このハンドブックでは啓発活動、ファンドレイジング、アドボカシー活動、意思決定への参加という、ユースができる4つのアクションを紹介。付属の USB には教育、保健、子ども参加といったトピックを学べる資料も入っています。7 月 13 日には、USB を使った勉強会を実施。ハンドブックで学んだユースの今後の活動にご期待ください！

あなたも参加しませんか？

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

プラン広島の会 f

手紙書き会

■ 日時：10月15日（土）、11月19日（土）、12月17日（土） 14:00 ～ 16:00
■ 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ3Fまたは2Fフリースペース
■ 内容：チャイルドへの手紙書き
■ 参加費：無料、事前申込不要
■ 連絡先：小村
Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

プラン千葉 W

第15回 秋の例会

■ 日時：10月16日（日） 13:00 ～ 16:00
■ 会場：千葉市民会館 会議室
■ 内容：チャイルドへの手紙書き、ほか
■ 参加費：プラン千葉の会員は無料、非会員はひとり500円
■ 定員：先着30名
※参加ご希望の方は、10月14日（金）までに下記へご連絡ください
■ 連絡先：前田
Mail：e_maeda@yellow.plala.or.jp

プラン長崎ペアレントの会 W f

プラン長崎ペアレントの会

■ 日時：10月23日（日） 11:00 ～ 16:00
■ 会場：未定
■ 内容：プラン職員による熊本緊急支援についての講演ほか。詳細は未定ですが、昼食をはさみ、懇親の時間も予定しています
■ 連絡先：深堀
Mail：plan.nagasaki@hotmail.co.jp

プラン・フレンズ（開発教育ボランティア） f

小・中学生向けワークショップ「私が大統領になったら ～みんなで考える途上国の今～」

■ 日時：10月23日（日） 14:00 ～ 16:00
■ 会場：JICA地球ひろば（JICA市ヶ谷ビル内）
■ 内容：もしあなたが大統領になったら、どんな国をつくりますか？ プラン・フレンズの開発教育ワークショップで、仮想の国の大統領選挙を通じて、水と衛生・教育・早すぎる結婚などをめぐる途上国の問題を解決する方法をみんなで考えましょう
■ 対象：小学5年生～中学3年生（保護者見学可）※高校生・大学生はボランティアとして参加できます
■ 参加費：無料
■ 定員：先着30名
※参加ご希望の方は、お名前・学年・保護者同伴の有無・保護者電話番号をお書きの上、下記へお申し込みください
■ 連絡先：三石
Mail：planfriends@yahoo.co.jp

プラン岡山の会 W f

手紙書き会

■ 日時：10月30日（日） 13:00 ～ 16:00
■ 会場：岡山県生涯学習センター ボランティア室
■ 内容：秋の手紙書き会を行います。立体カードや消しゴムはんこを作って、チャイルドに送りませんか？ SC番号、SP番号がわかるものをお持ちください
■ 参加費：300円（ひと家族につき） ※消しゴムはんこの材料によっては、一部実費（100 ～ 200円程度）をいただきます
■ 連絡先：プラン岡山の会 お世話人会（事前に連絡をいただけるとありがたいです）
Mail：planokayama@excite.co.jp

山形・秋田プランの会

第26回山形・秋田プランの会

■ 日時：11月13日（日） 13:00 ～ 16:30
■ 会場：山形テルサ3F研修室A
■ 内容：プラン職員の講演、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
■ 参加費：500円
※11月9日（水）までに下記へお申し込みください
■ 連絡先：岩谷
Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

プラン札幌の会

プラン札幌の会

■ 日時：11月20日（日）
■ 会場：未定
■ 内容：プラン職員による講演などを予定しています
■ 連絡先：世話人
Mail：p-kai@plan-international.jp

プラン群馬の会

秋の例会

■ 日時：11月27日（日） 9:30 ～ 13:30
■ 会場：群馬県立土屋文明記念文学館
■ 内容：今回は初めて高崎で開催します。午前中の内容は未定です。会終了後は館内のイタリアンレストランで、ランチを楽しみながらの懇親会を予定しています。たくさんの方の参加をお待ちしています
■ 参加費：300円（ランチ代別）
■ 連絡先：星野
Mail：kaoru_hoshino@hotmail.com

PLAN サポーターズ@ EZO

「国際協力フェスタ」に今年も出展！

■ 日時：12月3日（土） 11:00 ～ 17:00
■ 会場：札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）北3条交差点広場
■ 内容：国際協力に関わる道内の約30団体が集まるフェスタに出展します。支援者の方々とお会いできるのを楽しみにしています。ぜひお立ち寄りください。また、当日ボランティアも募集中です。ご協力いただける方は、11月19日（土）までに下記へご連絡ください
■ 連絡先：松澤
Mail：namaskar@jcom.home.ne.jp

プラン山陰の会 f

「タイムフェスティバル」出展

■ 日時：12月4日（日） 11:00 ～ 15:30
■ 会場：鳥銀文化会館
■ 内容：鳥取県国際交流財団主催のフェスティバルに出展します。チャイルドとの交流、熊本での支援活動も紹介、募金活動もする予定です。会場では各国料理も味わえる楽しい会です。今年で出展3回目！ どうぞ、お越しください
■ 参加費：無料、事前申し込み不要
■ 連絡先：岡川
Mail：leafmoon804@yahoo.co.jp

Wウェブサイト fフェイスブック
上記アイコンのある会については、プランのウェブサイトから各会のページにリンクできます
http://www.plan-international.jp/supporter/plankai
支援者の会に関するお問い合わせ先：
支援者サポート部 TEL：03-5481-6100
※ウェブサイトにはイベントの開催報告も掲載しています。ぜひご覧ください

訂正のお知らせ 「プラン・ニュース」No. 102の11ページでご紹介したプラン一般プロジェクト、インド「子どもたちの栄養状態改善プロジェクト」を実施している州は、ラジャスタン州のみです。オディシャ州では、このプロジェクトは実施されていません。訂正申し上げます。

「2017年カレンダー付きグリーティングカード」キャンペーン期間を延長しました！

プラン・スポンサーシップを通じて交流しているチャイルドに、2017年のカレンダー付きグリーティングカードを送りませんか？ 毎年ご好評をいただいている本キャンペーン、今年は受付期間を10月31日（月）まで延長しました。まだお申し込みでない方は、この機会にぜひご参加ください。お待ちしております！

【参加対象】
現在、プラン・スポンサーシップでチャイルドと交流されているスポンサーの方
（カードは、ひとりのチャイルドにつき1点となります）

【お申し込み方法】
■ パソコン・スマートフォン
https://www.plan-international.jp/eventcalendar/letter_fy17/
■ 郵送
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F 公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン
支援者サポート部「2017年カレンダー」キャンペーン係
■ TEL：03-5481-6100
（受付時間：平日9：00 ～ 17：30）
■ FAX：03-5481-6200

【内容】
右のA ～ Cのカードの中から、デザインをひとつ選んでお知らせください

※カード裏面のカレンダーデザインについては、ウェブサイトをご覧ください

【お問い合わせ先】
支援者サポート部
「2017年カレンダー」キャンペーン係
TEL：03-5481-6100
（平日9：00 ～ 17：30）
Mail：spl@plan-international.jp



カードA（表面）



カードB（表面）



カードC（表面）

領収証明書は2017年1月にお届けします ～確定申告による還付金は最大4割！～

皆さまの寄付金は、確定申告により税法上の優遇措置を受けることができます。具体的には、「所得控除」または「税額控除」のいずれか有利な方式を選択し、寄付金控除を受ける形となります。確定申告による還付金は、最大4割です。

2016年1月1日～ 12月31日に受領したご寄付の領収証明書は、2017年1月下旬にお届けいたします。紛失等による領収証明書の再発行はできませんので、申告時まで大切に保管してください。なお、以下の点にもご注意ください。

■ 今回発行分より領収証明書の名義を変更される方は、2016年12月20日（火）までに書面（メール・FAX）、もしくはお電話にてお知らせください。
■ クレジットカードやコンビニ決済でのご寄付は、決済日ではなく、カード会社・決済代行会社からプラン・インターナショナル・ジャパンへ入金された日が受領日となります。12月のクレジットカード・コンビニ決済は、2016年分の領収証明書には含まれませんのでご注意ください。
■ 年末調整で寄付金控除を行うことはできません。
■ 一部の自治体においては、個人住民税の寄付金控除の対象となる場合もあります。詳しくは、お住まいの都道府県や市区町村にお問い合わせください。なお2015年分より、神奈川県・横浜市の県民税・市民税も控除を受けられるようになりました。

【ご連絡・お問い合わせ先】
支援者サポート部 寄付金管理担当
TEL：03-5481-6100
（平日 9：00 ～ 17：30）
FAX：03-5481-6200
Mail：service@plan-international.jp

プランへの寄付となるイベントのご紹介

女の子を支援するライブ「Women in Jazz」

株式会社ギャンビットはプランのBecause I am a Girl キャンペーンに賛同し、2010年から毎年、ファンドレイジングコンサート「Women in Jazz」を開催しています。女性ジャズアーティストたちが中心となり、音楽を通じて途上国の女の子たちを応援するほか、コンサートの合間にはプランの活動地から届いた動画を流し、途上国の女の子たちを取り巻く現状を来場者へ伝える場面もあります。2016年11月6日（日）には、第7回となる「Women in Jazz」が開催されます。詳細につきましては、下記の公式ウェブサイトをご覧ください。
http://women-in-jazz.net/



昨年のWomen in Jazz コンサートより

※「プラン・ニュース」No. 104は、2017年4月上旬頃にお届け予定です

コミュニティ訪問に行ってきました！

カメルーン共和国 **CAMEROON**

チャイルドに会う許可をいただくため 王様にもお会いしました！

コミュニティ訪問でマリを訪れたことがきっかけのひとつとなり、
アフリカ支援にかかわるようになった原若葉さん。
JICAの長期専門家（司法アドバイザー）として赴任中の
コートジボワールから、カメルーンのチャイルドのもとを訪れました。



スポンサー：原若葉さん／
コートジボワール赴任中
チャイルド：ジセルさん
（女の子／訪問時 17 歳）

1999 年から西アフリカ・マリのチャイルドと交流し、2007 年に初めてのコミュニティ訪問をしました。このときの経験がとても強烈で、アフリカ支援の必要性を痛感。その後日本でいくつかの活動を行い、2014 年 12 月からは、コートジボワールで本業の司法分野のアドバイザーとして活動しています。3 人目のチャイルドであるカメルーンのジセルとは、彼女が 8 歳のときから交流がスタート。その彼女が今年“卒業”を迎えるということで、4 月に 2 回目のコミュニティ訪問をしてきました。

私が現在暮らしているコートジボワールからカメルーンの首都ヤウンデまでは、飛行機で 3 時間ほど。夜遅い時間の到着だったのですが、空港にはプランのスタッフが迎えに来てくださいました。翌日はプランの事務所で説明を受けてから、車で現地事務所のあるバメンダまで約 6 時間の移動。その車中で、私が「チャイルドが暮らす地方の王国に興味がある」と言うと、「あなたも明日、王宮に行って王様に謁見するんだよ」と言われてびっくり仰天！　コミュニティは王国の中でも最も大きなバフット王国にあり、チャイルドに会うには王様の許可をいただく必要があったのです。

さて、コミュニティ訪問当日。朝はバメンダのプラン事務所で、持参したおみやげの登録等を行い、市庁舎などを表敬訪問した後、いよいよバフット王国の王宮へ。王様のお出ましまで約 1 時間待たされましたが、プランスタッフの作法に従ってお辞儀をした後、王様と直接会話し、みんなで記念撮影。続いて、王様のおすすめに従う形で王立博物館を見学し、予定よりも 1 時間以上遅れて（笑）、ジセルの家に到着しました。

ジセルの家では本人とご両親、お姉さんが出迎えてくれ、まずは手作りの料理でランチタイム。ジセルはみんなに料理を運ぶなど、とても気配りのできる聡明な印象の女の子でした。「将来は先生か、法律関係の仕事がしたい」と語り、これからも勉強を続けると聞いて、とても安心しました。それにしても、送られてきていた写真ではまだ少し幼いイメージだったのに、実際に会ってみるともうすっかり大人の女性で驚きました。

その後はコミュニティの集会場で歓迎式典に出席し、訪問は無事終了。今回の訪問では、現地のスタッフがとても熱心かつ効果的に活動していて、いつもきちんと手紙の返事が届いている理由がよくわかりました。でもひとつ残念だったのは、訪問がチャイルドの卒業直前になってしまったこと。ジセルの次のチャイルドたちとは、もっと早い時期にコミュニティ訪問をして、その後数年間は交流が続くという状態にしたいと思っています。



左：プランのスタッフとともに、王様と記念撮影！
右：かわいいおみやげもいただきました

旅のスケジュール

2016年	4/27	コートジボワール〜ヤウンデ（飛行機で約3時間）
	4/28	プラン事務所で打ち合わせ後、バメンダへ移動（車で約6時間）
	4/29	コミュニティ訪問
	4/30	バメンダ〜ヤウンデ
	5/1	ヤウンデ〜コートジボワール

● コミュニティ訪問は、出発日の 8 週間前までにお申し込みください。手続き方法などの詳細は、ウェブサイトでご覧いただけます→ http://www.plan-international.jp/supporter/visit

PLAN NEWS
2016 AUTUMN NO.103

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒 154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22 サンタワーズセンタービル 10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙写真：モザンビークの女の子